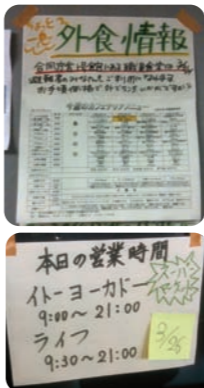






ひっきりなしに救援物資を届けてくださる方がつづいた。

階段の長さに愕然。二〇〇〇人を超える巨大避難所になり、掲示板も各フロア5カ所に増設。食事・洗濯・ふる・計画停電・救護室・物資提供など、案内を紙に書いては張り出し、アナウンス。福玉ボード（下欄「広報世界遺産」参照）もスタート。銀行・コンビニ・コインランドリーなどの情報をマップにして配布。



▼26日 昼にモスバーガー五〇〇食、夜はコーンスープ。退館する方が増え2階の空きスペースが目立ってくる一方で、双葉町からの避難者は増え続けていた。加須出身ユースで「騎西のまちはこんなところマップ」作成。  
▼27日 アリーナ相談一覧が完成し、配布。やっと館内の支援やサービスの概要が明らかになる。



「ここは生活の場です」と入場制限の張り紙

▼21日 掲示物がひと段落。計画停電とお店情報の掲示がルーチン化。コンセントをシェアできるよう延長コードも設置。早くも2階には空きスペースが出始める。本部をはじめ各部署で、社協の職員さんが毎日、応援に来てくださるのはありがたいのだが、日替わりで担当ということになる。前日までの経験がうまく活かされていないことも多かった様子。

▼22日 「おふる情報センター」立ちあがる。福玉ボードを福島の人といっしょにつくろうと、福島の人に折り紙を折ってもらうこと。

▼23日 福玉ボードにひきつづき取り組む。ハローワークの説明会など、労働相談など避難所を出た後の相談へと移行していく。双葉町長が、四月以降は旧騎西高校に移転することを発表。

▼24日 炊き出し班×モスバーガーによるコーンスープの炊き出し。透析患者の食事調整が始まる。ボランティアによる床屋がオープン。多数のボランティアが館内に入ることで、落ちついて休めないなど居住環境が改善されないことが課題に。入場制限を提案するもなかなか規制できず。騎西の避難所で配慮が必要だと思われることを書き出すも、県庁とそ

の提案をすりあわせることができなかった。▼25日 ボランティアの提案をすりあわせることができなかった。最後の仕事は、玉ボードの片付け。半分は騎へつづい

- 情報班便利グッズベスト5  
①位 ガムテープ (布・紙)  
②位 マジック (黒・カラー) 正しい持ち方  
③位 コピー用紙 & コピー機  
④位 地図  
⑤位 緑エプロン

【注】①ダントツ位。②油性・水性両方。③掲示は紙の大きさと掲示方法の統一がポイント、掲示の日付も大事です。④銭湯、銀行・郵便局、コインランドリー、スーパーマーケット、病院はすごく重要。「6号線沿線」という言葉も忘れられない。⑤福島の女性たちのエプロン姿も。選外1: 段ボール&段ボールカッター「段ちゃん」 選外2: 近隣の計画停電情報 選外3: 模造紙



みんなで相談して地図づくり

▼30日 双葉町の移動がスタート。情報班の資料は、騎西行き

▼31日 朝から続々人が出て行く。昨日までの喧嘩がうそのように、昼過ぎにはほとんど人がいなくなった。最後の仕事は、玉ボードの片付け。半分は騎へつづい



### 広報世界遺産 福玉ボード

福島と埼玉の気持ちを結ぶ「福玉ボード」。一方通行の応援ボードでなく、お互いのエールの交換ボードにしたいと最初にこの名前に決めました。

支援する人される人という関係を越え、これから、暮らして「ともに」創り合う仲間になりたいから。そこには意見とか、要望とかじゃなく、「つぶやき」や「ため息」にこそ感じられる何かを、お互いに「知る」ことから始めたいと願って生まれました。

三月二日初めて、ケヤキ広場に一〇メートルぐらいの模造紙を置き「ひとことお気持ちはどうぞ」とスタンプが声かけするやいなや、老若男女三三たちがわっと集まり三分もしないうちに……絵、そして折り紙の花や鳥でうまっています。

「お母さんが福島出身です。今は電気をもらってる埼玉です。自分でできること一杯がんばります。」という埼玉の方の言葉の横に福島の「みなさんいつか遊びに来てくださいな」という言葉が並んだ。

### 福島のみなさんからのメッセージ

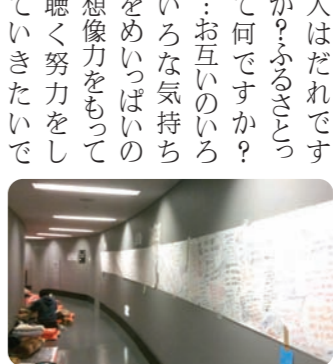
◎自宅は半壊し、友人知人の安否も分からず、原発の恐怖にさらされながらの生活は本当に地獄のようでした。小さい子供を抱え、親戚もいない埼玉の地に避難するには不安がありました。皆様にあなたを歓迎して頂き、ある方に「大丈夫、いわきは必ず復興します」と力強い励ましを頂き、涙が出そうになった事を忘れることができません。震災で失った物も多く、辛い、悲しい事は沢山ありましたが、埼玉で得る事のできた人とのつながりや、人を思いやる気持ちは、地震や津波では壊されない、お金よりずっと大事な私の宝となりました。

◎原発事故で大好きな故郷を離れなくてはならず、とても気持ちが塞いでいたが、スタッフの方から頂いた「埼玉を第二の故郷だと思って下さいね」という言葉に心が晴れました。前を向いて、がんばります！

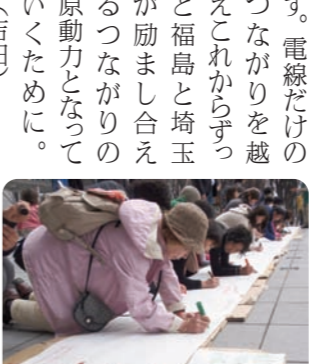
◎何もなくなった私の心を、埼玉の皆様がとても温かくしてくれました。今は不安や悲しみもあり、本当の意味で心の底から感謝できていないかもしれませんが、ただ、ゆっくり時間をかけて心を取り戻し、皆様からもらった大きな愛を、いつの日か自分もまた違う誰かにプレゼントできるように、なりたい。ここにきてよかった。出会えてよかった。生き抜いていきます。

◎みなさんの笑顔や優しさにどれだけ勇気づけられたか……。これから福島に戻り、以前より美しい海や山、川

今一緒にいたい人はだれですか？ ふるさとって何ですか？ ;お互いのいろいろな気持ちをめいっぱい想像力をもって聴く努力をしていきたいです。電線だけのつながりを越え、これからは福島と埼玉が励まし合えるつながりの原動力となっていくために。(吉田)



窓がなかった5F奥の貼り付けると、「これはいい、ありがとう」との声が。



おばちゃんも子どもたちも、たくさんの方が描いてくださいました。



みなさん、すてきな思い出ができました。これからも人をわすれず、すましていきたいと思います。(S.A)